平成２８年度　第４回大和市文化芸術振興審議会　会議要旨

１．日　時　　平成２９年２月２３日（木）午前１０時００分～１２時００分
２．場　所　　大和市役所会議室棟２０３会議室
３．出席状況　委　員９名（深澤会長、小林委員、古谷田委員、高橋委員、橋本委員、服部委員、
　　伏見委員、星野委員、吉川委員）
　　事務局４名（文化振興課長、文化振興担当３名）
４．傍聴人　　なし
５．議　題
　１ 開会
　２ やまと芸術文化ホールの運営状況について（報告）
　３ 文化芸術に関するアンケート調査（やまとｅモニター）について（審議）
　４ 文化芸術の力で大和市を輝かせるためには（意見交換）
　５ その他
　６ 閉会
６．会議資料
　○やまと芸術文化ホールの運営状況について
　○文化芸術に関するアンケート調査の実施について
　○文化芸術の力で大和市を輝かせるためには（意見交換）

【会議要旨】

１　開会

２　やまと芸術文化ホールの運営状況について（報告）

○市から、「やまと芸術文化ホールの運営状況について」について説明。

委　　員：ホール事務所がホールやギャラリーから離れている場所にあり、分かりづらい。不審者の対応などセキュリティ面で不安がある。
館内には、イベントＰＲボードもなく、どのようなイベントが催されているか分からない。運営に影響があるのではないか。

委　　員：イベント観光協会がシリウスの総合カウンターと間違われているケースが多くある。イベントスケジュールやチケット購入方法、図書の借り方などについて多く問い合わせがある。１階正面入口横の案内カウンターは分かりづらく、見落とされがちである。

委　　員：１階の入り口付近に大きな円卓を配置するなど、総合受付を分かりやすくすることも必要ではないか。

事 務 局：現在、利用者を分かりやすく誘導できるよう、案内サインを追加しているところである。

委　　員：バックヤードのスペースが少ないように感じる。例えば、図書ボランティアが会議を行うにしてもラウンジしかなく、学習センターを予約するしかない。指定管理者が異なるため、思うように会議室を予約することもできない。運営に必要なスペースを確保できると良いと感じる。

委　　員：ホール事務所の受付対応が事務的で気になる。もう少し、イベント、利用者に興味を持って対応してもらえると良いと感じる。

事 務 局：所管課、指定管理者に委員より意見があったことを伝えておく。

委　　員：今後、芸術文化ホールの稼働率を継続的に維持していくためには、リピーターを増やしていくことが重要である。ポイントカード制度や会員制度といったものは検討しているのか。

事 務 局：今後、指定管理者は、「友の会」などの会員制度を検討する予定であると聞いている。

3　文化芸術に関するアンケート調査（やまとｅモニター）について（審議）

○市から、「文化芸術に関するアンケート調査の実施について」について説明。

会　　長：（４）調査方法のｅモニター登録者の内訳で２０代の登録人数が少ないのではないか。

事 務 局：ｅモニターは、市民の皆さんに登録してもらうシステムのため、どうしても偏りは出てきてしまう。積極的に登録者数を増やしていくことは必要と考えている。登録者数は１,０００人以上いるので、統計上大きなずれはでないと考えている。

会　　長：年齢別に傾向を把握できるような集計をお願いしたい。

委　　員：シリウスで同じアンケートを実施すると良いのではないか。

委　　員：利用者の満足度を図るには良いと考えるが、シリウスに訪れている市民は、文化芸術に好意的な人である可能性が高い。かえって偏った回答結果になってしまい、適正な結果は得られないのではないか。

委　　員：問１０「文化芸術に関する環境への満足度」について、「環境」は人によって異なる。もう少し細分化し、設問を増やすなどしないとアンケートで図ることは困難であると考える。

事 務 局：問１０については、他の設問の回答によっても把握することが可能と思われるので、削除する方向で検討する。

4　文化芸術の力で大和市を輝かせるためには（意見交換）

会　　長：大和市を輝かせるためには、「ゲニウス・ロキ」と「ホスピタリティ」の２つの概念が必要と考えている。ラテン語の「ゲニウス・ロキ」は、日本語では「土地の精霊」、「地霊」などと訳されるが、現代は、その土地の記憶、魅力、雰囲気といった意味で捉えられている。大和のゲニウス・ロキをどう顕在化し、再認識させていくかが重要なポイントになると考える。

「ホスピタリティ」は、金銭的な対価を期待して行う「サービス」とは異なり、見返りを一切求めないで誰でも迎え入れるといった意味である。今後、文化芸術施策を推進するにあたっては、「ホスピタリティ」を根底に据えた運営が求められると感じている。

会　　長：先進的な取り組みをしている事例には、「人間力」、「地域力」が十分に活かされている。今後、大和市を文化芸術の力で輝かせるためには、市が掲げる将来都市像を意識しながら、市民の自立性を高め、自発的に行動できる環境をつくることが重要である。

また、今はシリウスだけが注目されているが、学習センターの地区館、青少年センター、コミセン、つる舞の里歴史資料館など他の文化施設でも文化芸術事業は行われているので、その存在を伝えるためのＷｅｂサイトを充実することで、まち一体に文化芸術があふれていることを表現できると思う。

さらに、シリウスの開館を機に、新たに市民の文化芸術団体が設立されたと思うが、これらの団体と長年活動している文化芸術団体との連携や市の支援、関わり方について検討していく必要がある。

委　　員：文化芸術によってまちを活性化するためには、大和固有の文化や地域の伝統行事を次代に引き継ぐための環境づくりが必要と考える。大和市では貴重な遺跡が発見されているので、それらを保存、復元し、特に子どもたちが大和市の生い立ちを学ぶことのできる場として整備すると良いのではないか。運営については、市が行うのではなく、ＮＰＯ法人が担い、活動を発展させていくことで、県、企業等の協力者が増えてくるのではないかと考える。

新たに文化芸術活動を始めたいと思っている人は多くいるが、日常的に活動できる場が不足しているように感じる。例えば、旧図書館を改装し、文化芸術活動をする人のための部室のようなものをつくり、安価で貸し出すのはどうか。気軽に使用できる場所が増えることで、文化芸術に親しむ市民が増えていくと考える。

文化芸術活動に参加する市民を増やすため、例えば、文化祭一般公募展に高校生部門や写真の部でいえばデジタル加工部門を新設するなど、枠を広げることを検討してみてはどうか。その際には、応募規定を明確にし、応募者に示して運営していくことが重要である。

委　　員：第一に、大和市が輝くためには、まずは市民が輝かなければならない。そのためには、敷居が高いものと思われてしまいがちな文化芸術を、市民が「楽しめる」、「またやりたい」と思えるイベントとして企画することが必要と考える。その際には、文化の多様性に着目していくべきではないかと考える。

第二に、大和市の輝きを市外の人たちに注目してもらうためには、情報発信力を強化していく必要がある。また、「阿波踊り」や「骨董市」のようなリピーターのいるイベントを大和の文化として定着させていくことが必要と考える。

第三に、文化芸術は継承が重要と考える。大がかりなイベントでなくても、地域のコミセンや公園、野外ステージ、慈緑庵などの既存施設を有効活用し、子どもたちに文化芸術に触れるきっかけを与えてあげることが大切なのではないか。また、大和市には、「月見野遺跡」、「ＹＡＭＡＴＯイラストレーションデザインコンペ」があるが、これらは、大和市ならではの文化芸術の魅力となり得るのではないかと感じている。遺跡の活用、全国の若いアーティストの招聘にさらに力を注いでいってはどうか。

シリウスについては、開館間もないせいか、まだ各施設が併設されているだけのような印象を受ける。指定管理者と市が連携し、各施設の融合が図られることで、市民の自発的な活動が活発になり、新たな文化を創造されていくと考える。

委　　員：シリウスが完成し、ハード面は整ってきたが、今後はいかにソフト面を充実させていくかが重要ではないかと感じている。

先進的な事例を見ると、人口減少、産業衰退等の「負」を抱える自治体が、現代アートを媒介にしてポジティブなものに変化させていることがわかる。

大和市は人口が増加している都市であるし、自然も豊かなので、現在のところ、地方の自治体が抱えているような課題に直面しているわけではないと思う。歴史、伝統を考慮しつつ現在の環境を維持しながらベットタウンならではの施策展開の方向性を見出していけば良いのではないか。

市民の自発的な活動の促進、歴史的に外国人が多いという地域特性、古くからある文化と新しい文化との融合、こういった点が施策を検討するうえでのポイントになると考える。

委　　員：シリウスの市民がつくる開館記念事業の一つであるオペライベントのようなものが多く実施されれば良いと思う。最初は、客として会場に足を運んだ人が、歌うことに楽しさを見出し、演者としてイベントに参加するといったケースが見受けられる。演出の先生に振り付けをつけてもらい、衣装を着て発表することに楽しみを覚える人が多い。市民に親しまれやすい「市民参加型」イベントを多く企画・実施することで文化芸術が活性化していくのではないかと考える。

フィルムコミッションを通して、大和市の各所が市外から注目され、多くの人が訪れている。２０代から３０代の若い世代、女性の間で護守印集めが注目されているので、スタンプラリーで大和市内各所を回ってもらい、ゴールのシリウスでは、市内の特産品やコーヒー無料券等がもらえるといったイベントを実施してみてはどうか。市内が賑わうのではないかと考える。

委　　員：大和市には、市内に８つの駅がある。また、東名高速道路等により都心などからアクセスが良く、人が集まりやすい恵まれた環境にある。大和市の文化的な魅力を発信できる土壌はあると感じている。大和には山も海もなく、観光要素は少ないが、月見野遺跡のように誇れるものがある。また、「阿波踊り」、「骨董市」、「中央林間マルシェ」など市民が主導で行っているイベントも多くある。市と民間が連携し、一体となって大和を盛り上げ、多くの人に訪れてもらうことで文化も発展していくと考える。

フィルムコミッションについては、年間６０件、今までに約３５０件の誘致をしており、市の魅力の発信に大きく貢献している。

委　　員：行政は進めていく方向性、着地点を明確にし、市民と目標を共有していくことが重要と考える。

大和市は、「健康都市」を掲げており、その目標に向け、心健やかな健康に資する取り組みを進めていけば良いと思う。

「読書を楽しむ大人が広がるまち」といったキャッチフレーズが思い浮かんだ。シリウスに特徴的な図書館ができたことを契機に、さらに読書に力を入れても良いのではないか。

読書は、教養、ノウハウを身につけられること以外に、楽しみながら疑似体験ができる。人が疑似体験を持つことは非常に大切なことである。今後の行政の取り組みとして、どこかで読書が活かされていくと良いと感じる。

委　　員：シリウスができたことにより、人の流れが大きく変わった。これは大きなことである。子どもたちがシリウスで経験することは、大きな財産になると感じている。

市民と考えを共有できるように「地域のために市民がすぐに実行できる小さな素敵なまちづくり」といったスローガンを決めても良いのではないか。市民がこのスローガンをさまざまな捉え方をし、自発的に文化のまちづくりを行っていけると良いと思う。

また、大和トンネルや厚木基地は、「負」のイメージが強いように思うが、例えば、大和トンネルの上に水遊びができる公園を整備したり、ゆとりの森で星を見ながら「ちょい飲みフェスティバル」を開催したりするなど、マイナスをプラスに変える取り組みも必要と考える。

大和市は、生活がしやすく、人口も多く、若い世代も住んでいる。また、文化スポットも多くあり、文化芸術が発展していく環境は整っていると感じている。

5 その他

○市から、次回は来年度の開催になる。後日、改めて日程の調整をすることを報告。

6　閉会